

計画的に、計画しない

—防災実践共同体における二重疎外の超克—

近藤誠司

関西大学社会安全学部

ZBN23220@nifty.com

防災実践共同体において、不用意に「計画」を持ち込むと、関係当事者は当該計画によって二重に疎外される事態が生じ得る。ひとつは、計画に対する関与の度合いによって生じる「計画からの疎外」(勝手に計画しやがって、とか、計画したのだから言うことを聞け等)、もうひとつは、既定の計画にとらわれてしまって臨機応変に対応できなくなる「計画への疎外」(計画文書に書いてあるのだから計画どおりにしよう、とか、計画とは異なる状況に陥ってしまったのだからもうお手上げだ等)である。

このような陥穽を超克するためには、「無計画」と「計画」のダイコトミーを弁証法的に解決する「非計画」の視座を確保することが求められる。

キーワード：計画・無計画・非計画、計画からの疎外・計画への疎外